

令和7年度 草加市野球連盟登録要綱

草加市野球連盟の規約及び大会共通の伝達事項を把握した上で「年間登録」を行い、各種大会への参加申込を受付けるものとします。

①年間登録の手続き

『草加市野球連盟規約』を確認した上で、『R7草加市野球連盟 登録名簿』の提出をお願いします。

提出方法はExcelデータのみで、当連盟までメール添付してください。

(PDFや画像、印刷書類では受け付けません)

https://www.netto.jp/cs/format_download.php?usr_account=sba&#google_vignette



<重要な登録条件>

「R7草加市野球連盟 登録名簿」において、**傷害・損害保険加入の確認ができない場合、登録を受付けません。**チーム登録時の加入義務として手続きをしてください。

令和6年度は、各大会参加時に、その都度、保険加入の確認をしていました。

令和7年度については登録段階で「Aクラス・Bクラス所属チーム」とともに書類提出・確認を行い、その後の大会参加を認めるものとします。

※傷害・損害保険会社については登録チームで選定してください

※参考にスポーツ安全保険（スポあんネット）を紹介しておきます

<https://www.sportsanzen.org/spoannet/index.html>

②年間登録に伴う「運営費」の支払い

R7草加市野球連盟 登録名簿データを提出後、「運営費」年間7,000円をお支払いください。

現金支払いの場合	振込支払いの場合
草加市野球連盟事務局（ヤマトヤスポーツ）へ持参してください。なお、水曜日は店休日です。 草加市高砂1-7-13 電話048-928-1135 10:00-19:00	埼玉縣信用金庫 草加支店 普通1701553 <口座名義>草加市野球連盟 山口 守 ※必ず振込人名とチーム名を入れてください

③野球競技者登録システムの登録手続き

※Aクラス所属チームのみ 3/15まで

草加市野球連盟Aクラスに所属する次のチームは、草加市野球連盟登録と併せて野球競技者登録システム「野球ねっと」の登録手続きが必要となり、登録が完了していないと草加市代表として県大会・全国大会等の上部大会への出場ができなくなります。

また、チーム登録料 1,200 円+個人登録料 @200円×構成員人数の支払いが必要となります。

(全日本軟式野球連盟・埼玉県野球連盟の登録料)

令和7年度 草加市野球連盟Aクラスチーム	備考
①旭鋼管工業 ②新田キラーズ ③セブンスターズ ④草加八潮消防局 ⑤ビースト ⑥宮沼Fダディーズ ⑦ユーコーズ ⑧アミノ化学 ⑨レッドシールズ ⑩エスペランサ ※⑦～⑩は令和7年度昇格	・①～⑥は年度更新手続きが必要 ・⑦～⑩は新規登録手続きが必要 ※旭クラブとフレンズは「野球ねっと」登録削除

④各大会への参加申込

上記の手続き後、草加市野球連盟が主催・運営する大会への申込ができます。

- ★「会長杯軟式野球大会」 3月～6月予定
- ★市民体育祭「市長旗争奪市民軟式野球大会」 6月～8月予定
- ★「珍来軟式野球大会」 9月～11月予定
- ★「マスターズ軟式野球大会」 3月～11月予定

各軟式野球大会参加チーム 確認事項

◎競技運営に関する注意事項

1. 決められた事項は、チーム全員に必ず徹底させること。
2. 大会に出場するチームは、事前に「草加市野球連盟 登録名簿」の提出が必用となり、その登録選手以外の出場は認めない。なお、登録チームは、必ず、傷害保険に加入するものとし、無保険チームが発覚した場合は登録抹消処分とする。
3. 軟式野球チームとして好ましくないチーム名を用いないこと。
4. ユニフォーム、帽子、ストッキング、アンダーシャツ等は、同一チームの各プレイヤー（監督、コーチを含む）は、同色、同形、同意匠のものを着用しなければならない。
5. 選手登録票に記載されている選手は全員必ず背番号をつけること（0～99までの算用数字であること）。監督は30番、主将は10番と統一する。背番号の規格は、最小限15.2cm以上、最大限長さ21cm、幅16cm、太さ4cm以内とする。背中には、選手名をつけてもよい。ただし、背番号の上にローマ字で姓のみとする。
6. ベンチは組合せ番号の若い方を一塁側とする。
7. 大会運営の関係でシートノックはなしとする。なお、練習は外野フィールドで行うこと。練習中といえどもユニフォームを着用しない者はグラウンドに出ることはできない。
8. 試合中ベンチに入れる人員は、登録されユニフォームを着用した監督、コーチ、選手25名以内とチーム責任者1名、スコアラー1名、マネージャー1名の3名以内とする。なお、この3名はスポーツ行事にふさわしい服装でベンチに入ること。
9. 球場内のフリーバッティングは認めない。また、バックネットに向かったのトスバッティングも認めない。
10. メンバー交換の時期：第1試合は開始時刻の30分前、第2試合以降は前の試合の4回終了時にそれぞれ本部へメンバー表3部（フリガナをつける）を提出して攻守を決定する。
11. 試合開始予定時刻前でも、前の試合が終了した後20分で、次の試合を開始する場合もある。（協議によって早める）
12. 試合開始予定時刻になっても会場に来ないチームは、原則として棄権とみなす。また、連絡が無い場合は、次回の大会出場はできない。
13. 試合開始の挨拶時には、登録された選手が9名以上整列しなければならない。ただし、条項を満たすには、ベンチ内に1名以上のボールボーイを確保しなければならない。満たない場合は、メンバー表交換時に両チームで協議を行い相手チームの同意を得なければならない。
14. ファウルボールはベンチサイドで拾い球審に手渡しすること。（バックネット前は攻撃側）
15. 大会当日の開催判断は午前7時とする。グラウンド不良や雨天の場合は試合を中止とする。
16. 雨天中止の確認は、チームから積極的に行うこと。また、開催状況については草加市野球連盟ホームページまたはFacebookページからも確認ができる。
17. 各チーム、監督または主将は球場へ来たら本部席まで連絡すること（代理人も可）。その時にメンバー表を渡します。
18. 試合中の電子機器（スマートフォン、タブレット端末等）の使用禁止。

連 絡 先 ヤマトヤスポーツ 048-928-1135

草加市野球連盟ホームページ及びFacebookページでは、連盟の活動予定や結果などをお知らせしています。

雨天時の開催状況も7時にFacebookページでお知らせしていますので、チーム内でも有効に活用してください。

◎競技中に関する注意事項

1. 競技中のプレイヤーの禁止事項

- (1) 試合から退いてベンチに残ることを許されたプレイヤーが相手チームのプレイヤー、監督または審判員に対して、野次をとすることは許されない。
- (2) ユニフォームを着用した監督、コーチ、プレイヤーが試合前、試合中を問わず、観衆に話しかけることを禁ずる。
- (3) 両チームのプレイヤー及び補欠は、実際に競技にたずさわっているか、競技に出る準備をしているか、あるいは一塁または三塁のベースコーチに出ている場合を除いて、そのチームのベンチに入っていないなければならない。
- (4) 監督、コーチ、プレイヤーはどんなときでも、ベンチ、コーチボックス、その他の野球場のどの場所からも、次のことをしてはならない。
 - a 言葉、サインを用いて、観衆を騒がせたようにあおろうとすること。
 - b どんな方法であろうとも、相手のチームのプレイヤー、審判員または観衆に対して悪口や暴言をまくこと。
 - c ボールインプレーのときに「タイム」と叫ぶか、他の言葉または動作で明らかに投手にボークを行わせようと企てること。
 - d どんな形であろうとも、審判員に故意に接触すること。（審判員の身体に触れることはもちろん、審判員に対しての話しかけや、なれなれしい態度をとること）
- (5) 野手は、打者の目のつくところに位置して、スポーツ精神に反する意図で故意に打者を惑わしてはならない。

※ペナルティー 審判員は反則者を試合から除き、競技場から退かせる。

- (6) 次打者席では、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に入ること。

2. ベンチ内での携帯マイクの使用を禁ずる。メガホンは一個に限る。
3. 守備が終わり、最後のボール保持者は、マウンドにボールを置いてベンチに戻る。
4. 試合中もめごとが生じたときは、その試合の担当審判員が責任をもって処理するが、審判員が裁定に苦しむとき、あるいは、カウント、ルールの間違いについては、控え審判員または責任審判員がその抗議の解決にあたることができる。その裁定は最終的なものとする。

以上が大会開催に関する大綱である。よって各チームはミーティングを開き、全選手に周知徹底してください。

◎競技者のマナーについて

マナーアップとフェアプレイの両面から、次のような行為を禁止する。

1. 捕手が投球を受けたときに意図的にボールをストライクに見せようとミットを動かす行為。
2. 捕手が自分で“ボール”・“ストライク”を判定するかのように、球審がコールする前にすぐミットを動かして返球態勢に入る行為。
3. 球審の“ボール”の宣告にあたかも抗議するように、しばらくミットをその場に置いておく行為。
4. 打者がヒジ当てを利用したのヒット・バイ・ピッチ（死球）狙いの行為。
5. 打者がインコースの投球を避ける動きをしながら当たりにいく行為。
6. プレイ中みだりにベンチを出る行為。
7. 野手が走者の視界を遮る行為。
 - (1) 走者がタッグアップしているとき、野手が走者の前に立ち視界を遮る行為。
 - (2) 野手が走者の前に立ち、ボールを保持している投手板上の投手への視界を遮る行為。
8. その回の先頭打者は、準備投球が終わるまで次打者席で待機すること。
9. 投手が投手版についた時点より、ベンチならびにランナーコーチを含めた競技者は静粛にしなければならない。

以上が競技者のマナーに関する大綱である。よって各チームはミーティングを開き、チーム登録の全選手に周知徹底してください。

◎大会特別規則

1.試合時間について

7回戦、1時間30分を超えて新しいイニングには入らないものとする。なお、スムーズな大会運営のため、当該試合の球審と大会本部の判断により、最終イニングの宣告が行われた場合はこの決定を最優先とし、当該チームの意見等は一切受け付けられないものとする。

2.コールドゲームについて

暗黒降雨コールドゲームは5回（4回1/2）とする。なお、リーグ戦における得点差におけるコールドゲームは適用しない。また、トーナメント戦においては7回戦3回以降10点差、5回以降7点差でコールドゲームを適用する。

3.延長戦について

延長戦は行わない。試合が大会規定回数（7回）を完了して同点の場合には、次のとおりとする。

・トーナメント戦方式の大会の場合、特別延長戦を行う

4.特別延長戦（タイブレーク）について

継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁走者とする。すなわち、0アウト一塁、二塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。

なお、勝敗が決しない場合は、さらに継続打順でこれを繰り返すこととする。2イニングで終了し勝敗が決しない場合は、抽選とする。

5.特別継続試合について

暗黒降雨等よりタイゲームのまま中断になった場合、更に降雨によりノーゲームになる回数
のとき特別継続試合として行う。

6.指名打者制度について（任意適用）

先発投手または救援投手が打つ番のときに他の人が代わって打っても、その投球を継続できることを条件にこれらの投手に代わって打つ打者を指名することが許される。投手に代わって打つ指名打者は、試合開始前に選ばれ、打順表に記載されなければならない。指名打者に代えて代打者を使っても良いが、指名打者に代わった打者は、以降指名打者となる。退いた指名打者は、再び試合に出場することはできない。指名打者制度は、攻撃9人制 または 攻撃10人制での適用を認める。攻撃10人制とは攻撃に参加する投手の他に指名打者を置くことができるが、この場合は試合終了時まで10人での攻撃を継続する必要がある。また指名打者と投手、捕手、野手との変更（入替）を認める。

7.バットについて

一本の木材で作った木製バットのほか、金属製バットについては全軟連公認(J.S.B.Bマーク付)のものに限る。

8.捕手の防具について

捕手が守備につくときは安全のため、マスク、レガース、プロテクター、捕手用ヘルメット、ファウルカップを着用すること。

9.ヘルメットについて

打者、次打者、走者及びベースコーチは、必ずヘルメットを着用すること。
(製品安全協会の認定基準によるもの)

10.抗議権について

監督、主将、当該プレイヤーのうちいずれか1名とする。

11.かくし球について

走者のいるとき、球を持たない投手がプレートの上でサインを見るような動作をした場合は、球を持たないでプレートについたとみなし、かくし球は無効でバークとなる。また、審判員の判断により当該行為の未然防止措置を取った場合、この決定に従わなければならない。

12.コーティシーランナーについて

試合のスピード化をはかるため、試合に出ている9人の中から代走（打順の前任の者、ただし投手を除く）を認める。

13.試合中の禁止事項について

- (1)バットの素振り用パイプ及びリングの使用を禁止する。
- (2)投手が腕の手首にリストバンド(サポーターなど)を使用することを禁止する。
- (3)足を高く上げてのスライディングの禁止。現実これが妨害になったと審判員が認めた場合、守備妨害で走者アウトとする。
- (4)空タッチを禁じる。走者が進塁のとき野手が空タッチをして、妨害になったと審判員が認めたときは、オブストラクション（走塁妨害）を適用する。
- (5)プレイヤーが塁上に腰を下ろすことを禁じる。
- (6)守備側からのタイムで試合が停止されたとき、その間投手は捕手を相手に投球練習をしてはならない。
- (7)もめごとなどの際、審判員や相手プレイヤーに手をかけることを厳禁とする。万一このような事態が起きたときは退場を命じる。
- (8)相手チームや審判員に対する聞き苦しい野次は厳禁する。また、スタンドでの自チーム側の応援の野次もチームの責任とする。

14.試合のスピード化に関する事項

(1)投手は初回（救援を含む）に限り、一分を限度として8球以内の準備投球が許される。次回からは4球以内とする。

(2)攻守交代は駆け足で行うこと。

(3)投手と捕手について

①投手が捕手のサインを見るときは、必ずプレートについて見ることにすること。

②投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には12秒以内、走者がいる場合は20秒以内に投球しなければならない。違反した場合、ただちにボールを宣告する。

③投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球すること。

④捕手から返球を受けた投手は、速やかにプレートを踏んで投球姿勢をとること。

(4)打者について

①打者は、速やかに打者席に入って打撃姿勢をとること。

②次打者は、次打者席へ入ったら必ず低い姿勢で待つこと。投手も必ず実行すること。

③打者がみだりに打者席をはずした場合、球審はタイムをかけずに、投球に対して、正規に「ボール」、「ストライク」を宣告する。

ア 投球が終了（見送るか空振りする）したら、打者席をはずすことは差し支えないが、投球の終了毎に、いちいちはずすことは許されない。

イ 打者は、打者席内でベンチのサインを見ること。（打者が正規に打撃姿勢をとらなければ、投手は、打者に投球しない。）

(5)タイムについて

①監督・主将はタイムを要求しないまま、みだりにベンチを出てはならない。

②タイムを制限する。

ア 試合中スパイクの紐を意図的に結び直すためのタイムは認めない。

イ 打者走者について、防具を受け取るタイム以外は認めない。

（走者用の手袋交換に対するタイムは認めない）

ウ タイムは、プレイヤーの要求したときでなく、審判員が認めたときである。打者がタイムを要求するときは、投手が投球の構えに入る前でなければならない。

また、打者は、投手が投球動作に入ったら打者席を出てはならない。

(6)本塁打の走者を迎える場合は、ベンチから出てはならない。

15. 試合中に交替した選手の扱いについて

(1)交替して一度退いた選手は、ウォーミングアップの相手、ベースコーチも許される。

◎特別規約

①学生チーム

専修学校生、各種学校生および大学生、高校生は同一学校または個人で一般チームに登録することができる。但し、学校単位で編成する場合は、学校名は使用せずクラブ名とする。

②控え選手の打順表への記入について

打順表提出時に、球場にいない者は記入できない。ただし、到着次第、監督は球審にその旨を申し出て、本部の確認を得た後、追加記入を要請することができる。追加が認められた選手は、それ以後、試合に出場できる。